

② 恵庭かわまちづくり事業 ～花の交流観光拠点と連携した水辺空間整備～

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 千歳川河川事務所 恵庭市

キーワード 道と川の駅、Park-PFI、花の拠点、水辺空間の創出

全建賞審査委員会の評価ポイント

道と川の駅周辺における花の拠点（公園）整備と河川空間整備との連携事業。民間の住宅団地建設事業を含む、多岐にわたる事業連携を実施し、魅力ある職・住環境を創出している点や、河川と道路の結節点を上手く利用し、連携したイベントでは、約34万人を集客するなど、地域の活性化に効果을あげている点が評価された。

1. はじめに

北海道恵庭市は、札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し、交通アクセスや豊富な水資源に恵まれ、商業施設や医療機関、さらには、数多くの公園など生活利便性に富む自然豊かな地域である。

市街地には、サケの遡上が見られる「漁川」や、縁辺部には多くの観光客が訪れる「恵庭溪谷」などがあり、豊かな自然環境とともに、市民主体による花のまちづくりが盛んで「花のまち」として全国的に知られている。

2. 事業の概要

恵庭市の総合戦略における「ガーデンデザインプロジェクト」では、職・住・観光機能拡充のため、国道36号と漁川が交差する場所にあたる道と川の駅周辺を「花の拠点」と位置づけ、道と川の駅「花ロードえにわ」のリニューアルのほか、市による「はなふる（都市公園）」整備とともに、民間事業者による新住宅団地の建設や、Park-PFIを活用した飲食・宿泊施設の誘致などを進めてきた。本事業は、これらの整備と連携し、河川管理用通路の整備を通じて漁川と公園や市街地との連続性を向上させるとともに、漁川の親水性や利便性を高める親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造し、観光地の魅力や居住環境の向上を図ったものである。



花の拠点と漁川

3. 事業の成果

国・市・関係機関が連携して本事業を含む一連の整備を進めたことにより、例えば、令和4年6月に開催された花の拠点をメイン会場とするイベントでは全国各地から約34万人を集客するなど、当該エリア全体の魅力向上が図られている。

さらに、年間100万人以上が来場する道と川の駅の集客力との相乗効果もあり、周辺の飲食店や農畜産物直売所等の収益力向上にも繋がっている。



連携イベント実施時の水辺の様子

4. おわりに

当該エリアでは、令和4年5月に花の拠点内にホテルが新規開業するなど、恵庭市の交流観光の拠点として、市民や観光客が気軽に自然と触れ合い、多様なレクリエーションを楽しむことができる魅力あるエリアとしての役割を担っている。

漁川の水辺空間では、更なる利活用の促進に向けて河川空間のオープン化を進める「都市・地域再生等利用区域」の指定を予定しており、花の拠点の各コンテンツや各種イベント等とも連携しつつ、飲食など憩いの場として、豊かでかけがえのない時間を過ごすことができる水辺空間の創出を目指している。